参院議員 紙 智子さん

新春対談

ガラス絵作家 児玉房子さん

紙　児玉さんは中米のコスタリカに何度も行かれて、すばらしい絵を描かれていますね。

児玉　コスタリカは人口が四百万人くらいの国で、憲法に軍隊をもたないと明記しています。教育にとても熱心で、医療水準も高いのよ。夫が自転車で世界旅行中にこの国で肺炎になり、私が駆けつけたのがコスタリカを知るきっかけでした。その後、せっせと行ってスケッチをし、日本でガラス絵にして「コスタリカ展」を開いてきたの。七十回を超えました。

紙　とてもあたたかくて、明るい絵ですね。この「父の帰りを待っている」の絵はなんか懐かしい感じで…。

児玉　これはね、夕方になると樹の下で女の子が二人、立っているのね。どうしてかなと思っていたら、ある夕方、自転車に乗った男の人が遠くから現れたの。そうしたら女の子が「パパ」って駆け出していったのよ。お父さんの帰りを待っていたのね。

紙　今の日本で夕方に帰って来るお父さんってあまりいませんよ。長時間、深夜労働が当たり前になって。

⑤ 人類の未来

人間らしい暮らしを

平和に生きる

児玉　コスタリカは、人間らしい暮らしがある平和な国だと思います。「コスタリカ展」は「武器はいやだ。平和に生きたい」というメッセージを込めた展示です。

紙　安倍首相は五年以内に憲法九条の改変を含めた憲法改悪をめざすと公言しています。昨年の国会では防衛庁が省に格上げされ、「愛国心」条項を盛り込んだ改悪教育基本法が成立しました。憲法と平和、人権を守る正念場だと考えます。

児玉　そうですね。武器は持たない、戦争はしない、国民には平和に生きる権利があるんだと明記した日本国憲法は、人類の宝です。平和憲法を守るため、持てる力を出し切っていきたいです。

紙　一九六〇年の安保条約反対闘争では多くの国民が立ち上がり行動した、と聞きます。今、憲法九条を守ろうと九条の会ができ、さまざまな運動が広がっています。安保闘争のような運動にしなければなりませんね。

児玉　六〇年安保のとき、私は夜間高校生だったの。国会に行こうと電車に乗ったんだけど、どこで降りていいのか分からない。隣の人に「国会へ行きたいんですが」ときいたら、ぼくたちも行くからいっしょにとつれて行ってもらい、デモをしました。その人たちは渋谷のお医者さんの団体でした。

紙　高校生で安保反対のデモをですか。いいなあ。今年は、たくさんの人が参加する壮大な運動にしたいですね。私は茨木のり子さんの「六月」という詩から、強い呼びかけを受けます。

児玉　どこかに美しい村はないか…という。

紙　そう。その三連は

どこかに美しい人と人との力はないか／同じ時代をともに生きる／したしさとおかしさとそうして怒りが／鋭い力となってたちあらわれる　です。

悪政押し返し

人と人との力を合わせれば、悪政を押し返せます。障害者の生きる権利を奪う「自立支援法」を障害者と共産党などの力で見直しさせることになりました。

児玉　紙さんは、やさしくて感性の豊かな人ですね。気品があってさわやかです。こういう紙さんを当選させたいです。

紙　ありがとうございます。いっせい地方選挙と参院選挙で日本共産党が大きく前進できるよう力を尽くしたいと気持ちを新たにしています。力を合わせましょう。

（おわり）

力を合わせて未来を開こうと語り合う、児玉さん（左）と紙さん

人と人とが力合わせ

紙　児玉